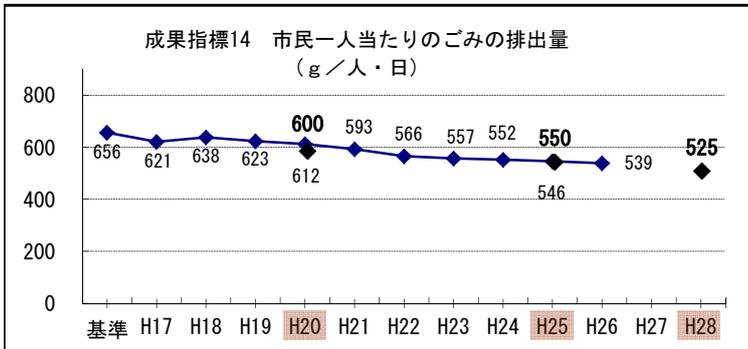


柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	I リデュース・リユース
ビジョン	買う人・売る人・作る人 いつも心に“もったいない”

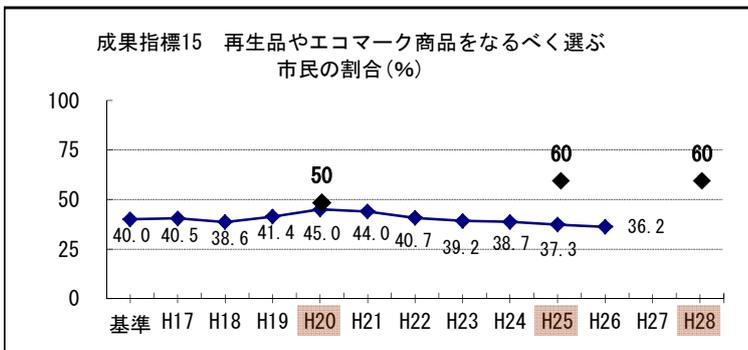


**主な事業**  
 ごみ指定袋制、レジ袋の有料化  
 集積場所での資源回収  
 EM処理剤の無料配布  
 広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

目標達成  
 順調  
 順調でない

13 「市民一人当たりのごみ排出量」は19年度から徐々に減少し、26年度は539gとなった。後期目標値には届かなかったものの、25年度より7g減となった。ごみ指定袋制及び資源回収等のごみの発生を抑制する事業により順調に後期目標値に近づいている。

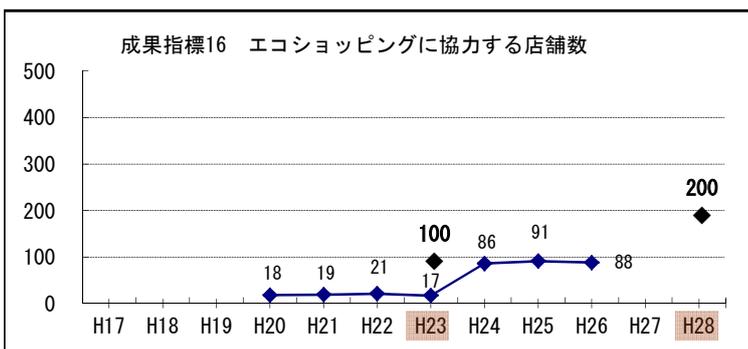


**主な事業**  
 リサイクルフェア  
 資源集団回収  
 分別収集事業  
 広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

目標達成  
 順調  
 順調でない

成果指標の分析 「再生品やエコマーク商品をなるべく選ぶ人の割合」は、20年度をピークに徐々に下がり続け、23年度から基準値を下回っており、あまり順調とはいえない。再生品やエコマーク商品を使用することの必要性など、さらに啓発活動が必要と考えられる。



**主な事業**  
 レジ袋有料化  
 広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

目標達成  
 順調  
 順調でない

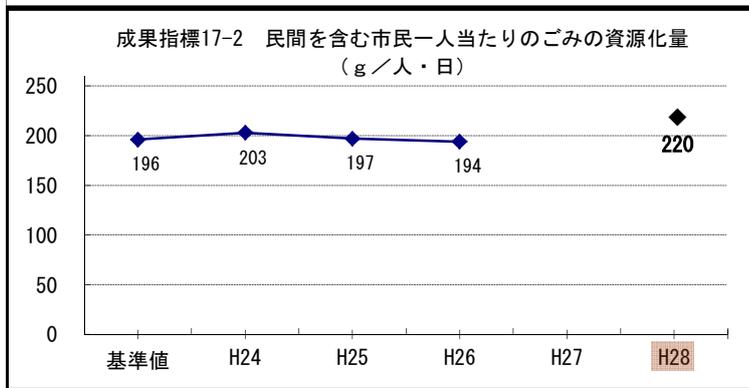
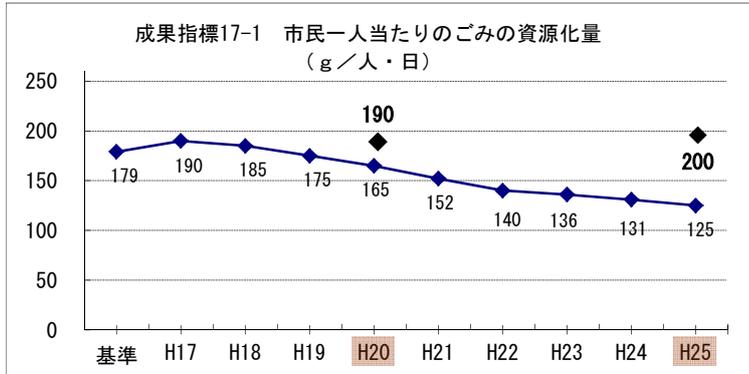
成果指標の分析 「エコショッピングに協力する店舗数」は後期計画から定義付け及び捕捉方法を確立し、数値の把握に努めたため大幅に増加している。しかし、これからも指標の数値の捕捉が困難であることが課題である。また、レジ袋有料化協力店舗であったドラッグストアの脱退が相次ぎ、成果指標が徐々に減少していることから、さらなる普及啓発が必要である。

成果が向上する余地（可能性）は？  大  中  小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

- ①市広報、「ごみと資源の出し方」冊子及びごみ収集カレンダーや3R推進ホームページの充実、イベントでの展示を通じて、3R活動の推進や適正排出を呼びかける。
- ②ごみ減量とリサイクル推進を図るため、資源回収及び小型家電・硬質プラスチック製品等の無料回収を継続するとともに啓発を行う。
- ③小学生の社会見学や地域で3R活動に関する環境教育を積極的に実施し、市民意識の改善を図る。
- ④エコショッピングを実施していない店舗に対して、普及啓発を実施する。

柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	J リサイクル・適正処理
ビジョン	子どもの未来を考えて、自然にやさしい処理・処分



**主な事業**

リサイクル情報事業  
フリーマーケットの開催  
リサイクルフェア開催

**計画通りに成果が上がっているか**

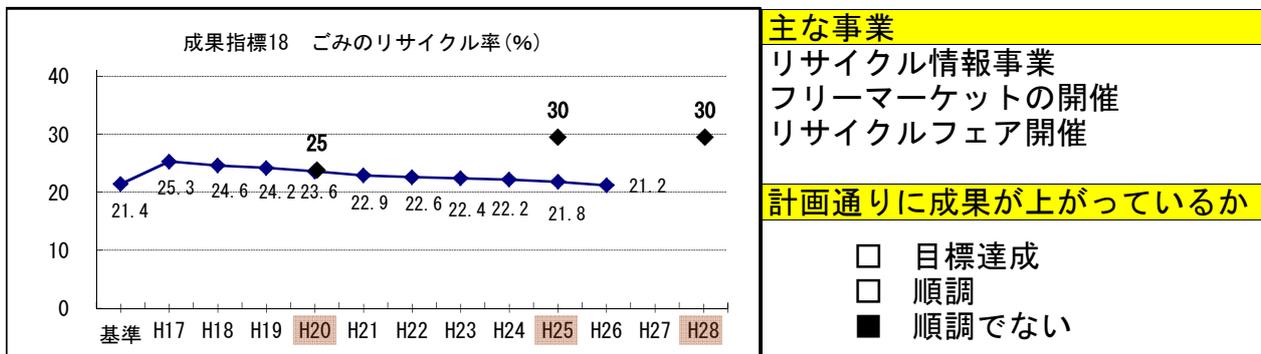
- 目標達成
- 順調
- 順調でない

**成果指標の分析**

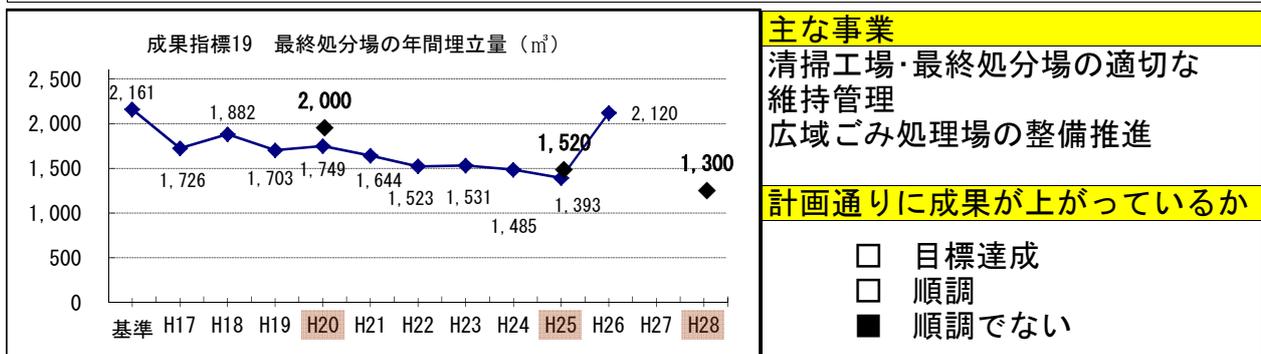
平成26年度から指標が統合された「民間を含む市民一人当たりのごみの資源化量」は、25年度から徐々に減となっている。これは容器包装自体の軽量化等によるものと考えられる。今後も引き続き、資源分別の普及啓発を行い、市民意識の高揚を図る。

※ 平成26年度より成果指標17-2へ統合

柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	J リサイクル・適正処理
ビジョン	子どもの未来を考えて、自然にやさしい処理・処分



**成果指標の分析**  
ごみ搬入量・資源回収量ともに減となっているが、ごみ量に対する資源回収量が若干減となっているため、リサイクル率も減となっている。資源量の減は容器包装自体の軽量化等によるものと考えられるが、今後も引き続き、資源分別の普及啓発を行い、市民意識の高揚を図る。



**成果指標の分析**  
「最終処分場の年間埋立量」は、コンクリート・陶磁器類等の搬入量制限や資源化の推進に伴い、平成21年度から緩やかに減少していたが、平成26年度は灰溶融炉の故障などによる停止の影響で焼却灰が処理できず、埋立量の増となった。

成果が向上する余地(可能性)は？  大  中  小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

- ①市広報、「ごみと資源の出し方」冊子及びごみ収集カレンダーや3R推進ホームページの充実、イベントでの展示、小学生の社会見学を通じて、3R活動の促進や適正排出を呼びかける。
- ②ごみ減量とリサイクル推進を図るため、資源回収及び小型家電・硬質プラスチック製品等の無料回収を継続するとともに啓発を行う。
- ③ごみ減量・リサイクルを心がけている人の割合が低い30歳以下をターゲットにスマートフォン用の分別検索・収集カレンダー配信アプリの導入を検討する。
- ④焼却飛灰は全量を埋立処分しているため、資源化について検討するとともに、焼却灰も、場外処分先の受入能力を把握し、埋立と資源化の適正な割合を見極める。